

世界標準で有用性の高いIELTSを英語教育のひとつの指標に

東京大学 グローバル・コミュニケーション研究センター長

高田 康成 教授

「グローバル人材の育成」がかまびすしく叫ばれております。

その掛け声の内容はともかくとして、

いま日本の大学が英語教育の面でも岐路に立たされていることは確かです。

これまでは「英語を」学ぶ授業が中心を占めてきましたが、

今後は「英語で」各種の授業が行われる形態が中心にならねばなりません。

そのためには大学入試も変革が必要であり、

特にネイティブ・スピーカーが首をかしげざるをえないタイプの受験英語は、一掃される必要があります。

論理的な思考を基礎として、ライティングやスピーキングを身に付ける教育を確立していかなければならないのです。

もちろん、このような変革には大学受験に至るまでの英語教育の改善が前提であり、

そのためには国を挙げて膨大な予算を投じる用意がなければなりません。竹やり精神主義を繰り返してはいけません。

東京大学も時代の変化に即応すべく、英語教育を刷新してきました。

ALESS/ALESAと呼ばれる論文作成を中核としたライティングの授業もそのひとつです。

2013年度にはIELTSを導入し、新入生300名を対象に大学が受験料を負担して

調査受験をしてもらいました。今年度は上記学生に加えて今年度の新入生300名をあわせて行い、

本学の英語教育の改善に役立てる方針です。

IELTSは単に詰め込んだ知識で解くことはできません。

記述式のテストでは、自分の意見を表現する力が求められます。

対面式のスピーキングテストではコミュニケーション力を測ることができます。

発信力を身につける英語教育が重視されていくにあたり、

世界標準の試験であるIELTSへの信頼性と有用性は、

今後さらに高まっていくと言えるのではないのでしょうか。



東京大学

大学院総合文化研究科

言語情報科学専攻

板津 木綿子 准教授



教養課程の英語教育改革で、 発信型の英語力を向上

「書く・話す」中心の発信力を高める

東京大学の教養課程における英語教育は、これまで「読む」ことが中心でした。国際化を推進し始めた1990年代半ばより、世界14カ国から留学生を受け入れ、在學生を派遣する短期交換留学プログラムをスタートしたものの、在學生が英語を読めても話せず、留学生と学び合うことができないという課題が浮き彫りになりました。

そこで、「書く・話す」という発信力の向上を目的とし、2008年に理系学生向けのアカデミック・ライティングのプログラム「ALESS (Active Learning of English for Science Students)」を導入しました。理系の1年生向けの1学期間のプログラムで、学生自らが研究課題を設定して仮説を立て、実験を行い、英語で論文を執筆し、プレゼンテーションをするという内容です。1クラス15人の少人数制で、ネイティブ教員が英語で授業を行います。「ピアレビュー」を取り入れ、学生が2人1組で互いの論理構成や文法の誤りなどを指摘し合い、分析的な思考や論理的な表現を用いた論文作成のスキルを高めます。

また、学びを深めるための「ALESS Lab」では、実験に必要な器具を提供し、理系大学院生のTAから実験についてアドバイスを受けることもできます。「Komaba Writers' Studio」では、添削指導ではなく、論の立て方などを人文系大学院生のTAと話し合うことで、学生自身の気づきを与えています。

学生の意欲的な学びを促す各種プログラム

2013年には、文系学生向けの「ALESA (Active Learning of English for Students of the Arts)」も開設しました。こちらも少人数制を徹底したアカデミック・ライティングプログラムで、ディベートやディスカッションを組み込んだ授業を行っています。

また、2013年度より「教養英語」の授業では、入学試験の英語

試験の結果に基づく習熟度別授業を取り入れました。3レベルに分かれて学びます。学期末の試験の成績でクラスが入れ替わるため、今より上のレベルの授業を受けたいと意欲的に学ぶ姿勢が見受けられます。

入学試験の英語試験で優秀な成績を収めた学生には、英語以外の外国語を習得する集中プログラム「Trilingual Program」も実施しています。これは、1年次に中国語の基礎を学び、2年次に中国へ短期留学するプログラムです。

新入生300人の受験料を大学が負担

このような教養課程の英語教育を検証するため、2013年にIELTSを導入しました。新入生3000人のうち、希望者300人に対して、大学が受験料を負担し、公開会場で受験できる体制を整えています。学生たちのIELTSへの関心は高く、受験者同士で自主的に勉強会を開いていたようです。学生たちには、IELTSを現状の英語力の把握や英語学習の振り返りに活用してほしいですね。また、留学や海外研修など、何らかの形で世界へ羽ばたいてほしいと願います。2014年度からは1年生だけでなく2年生も受験し、1年間の伸張度を客観的に測ります。データを分析し、今後の英語教育のカリキュラム編成に活用していく予定です。



東京大学

1877(明治10)年、東京開成学校と東京医学校を合併し、日本初の官立大学「東京大学」として設立。1949(昭和24)年に新制大学へ移行。2004(平成16)年に国立大学法人となる。本部機能や専門教育を行う本郷キャンパスのほか、教養学部がある駒場キャンパスほか、全国各地に約50

の附属研究施設、演習林などをもつ。

東京大学 駒場キャンパス 住所：〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1